

特定非営利活動法人がん政策サミット 第1期(2015～2017)

活動評価・報告書

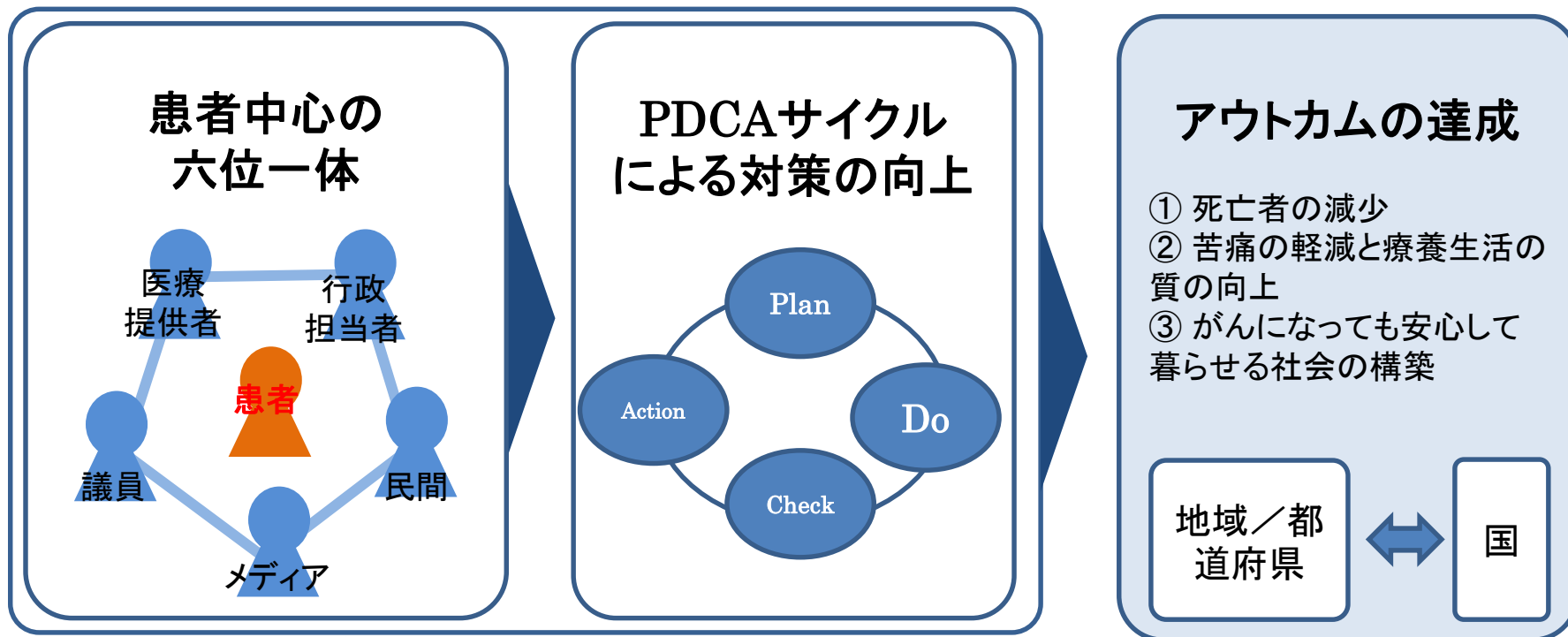


2017年12月

「がん政策サミット」の位置づけ

Mission:

患者・住民が政策立案プロセスを主導することにより、最上の医療を社会全般に実現する



アドボカシー（政策提言）
を学習する場

人的ネットワーク
を形成する場

情報や好事例を
学びあう場

「がん政策サミット」

中期計画: 第1期(2015年作成)

ミッション

患者・市民が医療政策立案プロセスを主導することにより、最上の医療を社会全般に実現する

長期 アウトカム 目標

- 国(2017年)と県(2018年)のがん計画の目標が達成されている。
[指標と計測] 国と県の評価指標、その計測結果患者
- 上記目標達成に対し、アドボケートの貢献が確認される。
[指標と計測] 「第2回患者アドボカシーアウトカム評価アンケート」(指標:2013年度と比較)

中期 アウトカム 目標

- 県計画中間評価時(2015年):患者アドボケートががん政策のPDCAサイクルにより広く参加し、活動を高めている。
[指標と計測] 「都道府県がん対策推進協議会等・患者関係委員参加状況調査」(指標:参加度、活動度)(仮案)

2017年度 活動(案)

1. がん患者アドボケートの下記の活動を支援する。
 - ①第3期都道府県がん対策推進計画の策定への参画
 - ②2018年度診療報酬・介護報酬同時改定への意見提出
2. 本プログラムのアウトカム評価を行う。

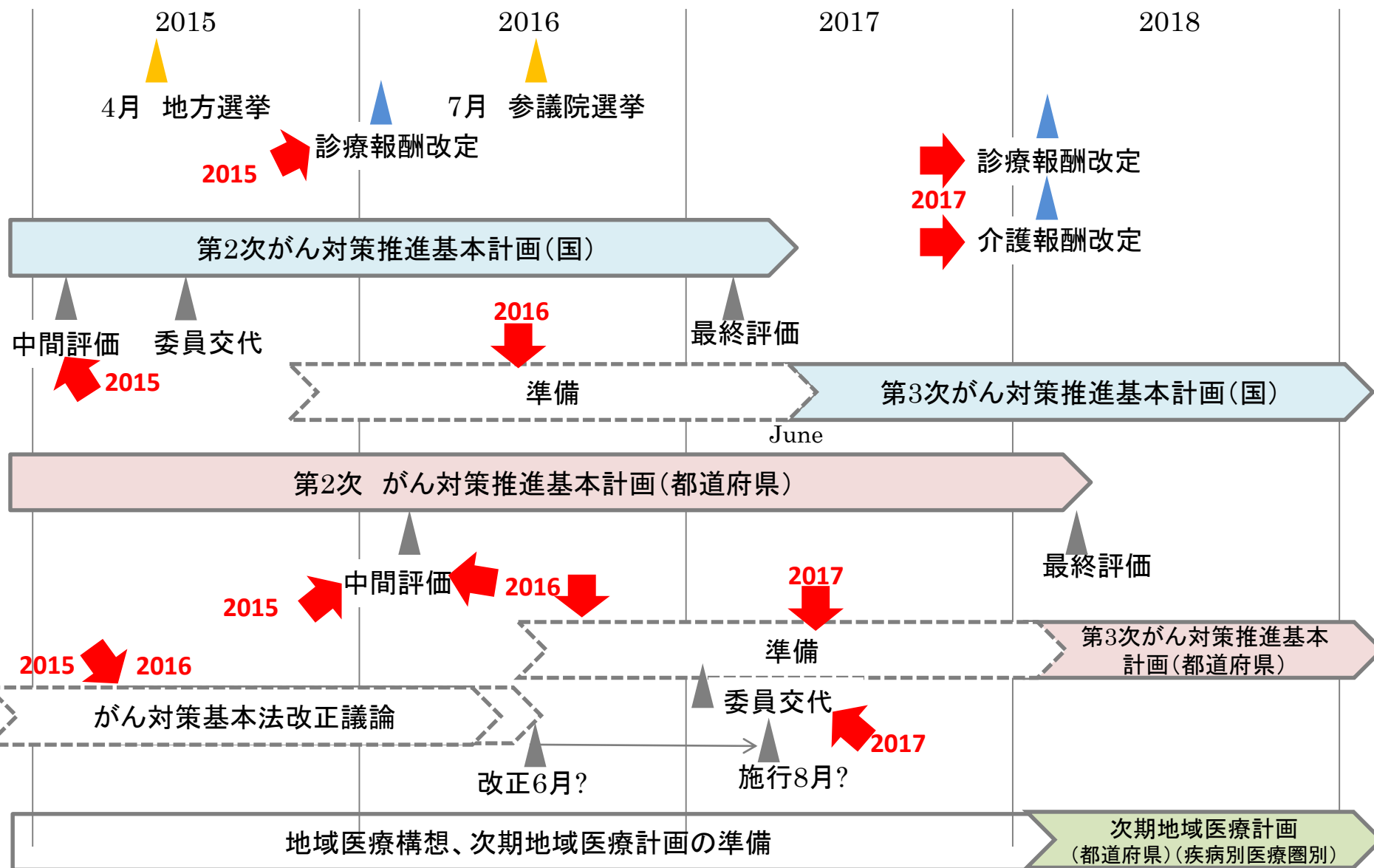
2016年度 活動(案)

- がん患者アドボケートの下記の活動を支援する活動を実施する。
- ①第3期がん対策推進基本計画の策定への参画と意見提出
 - ②第3期都道府県がん計画を策定する会議体への患者関係委員のより多くの委員参加

2015年度 活動(案)

- がん患者アドボケートの下記の活動を支援する活動を実施する。
- ①第2期都道府県がん対策推進計画の中間評価と計画改訂への参画
 - ②2016年度診療報酬改定への意見提出

がん対策の流れに合わせたテーマ設定



活動実績と自己評価

中期計画: 活動案

活動実績

2017年度

1. がん患者アドボケートの下記の活動を支援する。
 - ①第3期都道府県がん対策推進計画の策定への参画
 - ②2018年度診療報酬・介護報酬同時改定への意見提出
2. 本プログラムのアウトカム評価を行う。

- 「第14回がん政策サミット2017春」開催
 - ・都道府県計画策定議論のたたき台となるロジックモデルのアウトカム部分を議論、作成し、自県に持ち帰った
 - ・診療報酬・介護報酬改定の論点を専門家から学んだ
- 「第15回がん政策サミット2017秋」開催
 - ・14回で作成したアウトカム目標に資する施策は何か、各分野の専門家の講義と意見交換を行った結果を、自県の計画素案修正案を持ち帰った

自己評価 ◎

- ①第14回: 参加者アンケートで「満足」100% (79人)。分野別にロジックモデルを使ってアウトカム目標を設定し計画を策定することを学んだことが参加者に評価された。
- ②第15回: 参加者アンケートで「満足」100% (58人)。分野ごとに施策を考えた。各分野とも第一人者の講演があり、他にはない場と評価された。

2016年度

- がん患者アドボケートの下記の活動を支援する活動を実施する。
 - ①第3期がん対策推進基本計画の策定への参画と意見提出
 - ②第3期都道府県がん計画を策定する会議体への患者関係委員のより多くの委員参加

- 「第12回がん政策サミット」開催
 - ・中間評価の結果を踏まえ、アウトカム目標に基づいたロジックモデルを活用した計画策定のシミュレーションを通じ、やり方について学び合い、自県に持ち帰った
- 「第13回がん政策サミット2016秋」開催
 - ・がんの部位別死亡率削減策を検討するために、データを活用したロジックモデルのひな型を作成し、それを使う勉強をし、各県が持ち帰った
- アドバイザリーワークショップの開催
 - ・今後、当NPOの活動に期待することなどを、患者、医療者、行政からヒアリングした

自己評価 ◎

- ①第12回: 参加者アンケートで「満足」97% (56人)。「あるべき姿」を目指し、そのためにどのような状態を目指し、そのために何をするかを、ロジックモデルを使って論理的に考える重要性が理解された。一部に難解と感じる人もいたため、より理解しやすくすることが必要。
- ②第13回: 参加者アンケートで「満足」98% (65人)。地域の身近な課題の解決(死亡率の高いがんの死亡率を下げる)をロジックモデルと実際のデータによって考察することの重要性・有効性が参加者に実感された。

2015年度

- がん患者アドボケートの下記の活動を支援する活動を実施する。
 - ①第2期都道府県がん対策推進計画の中間評価と計画改訂への参画
 - ②2016年度診療報酬改定への意見提出

- 「がん政策サミット2015春」開催
 - ・県中間評価の準備として国の二期計画中間評価について学びあった
 - ・がん対策推進基本法改定に関する意見提出した
- 「がん政策サミット2015秋」開催
 - ・施策だけではなく、成果を目指すがん計画の策定の仕方を、ロジックモデルを使用して学び合った
 - ・診療報酬の動向について学んだ
- 患者アドボカシーアンケートを実施

自己評価 ○

- ①がん対策基本法改正に向け、患者、医療者、行政担当者などが現実には抱えている現状と解決案合計51の意見を議連に手渡すことができた。
- ②政府が主催した「がんサミット」に春のサミット参加者から総勢90人を動員。地方の患者アドボケートが国の大きなイベントの場に参加する機会を提供できた。
- ③診療報酬の改定が患者にも地域の医療にも直結する制度であることを理解することができた。

アウトカム目標の設定とその結果に対する自己評価

長期アウトカム目標 (2015策定)

①国(2017年)と県(2018年)のがん計画の目標が達成されている。

[指標と計測] 国と県の評価指標、その計測結果

②*(運用上の追加)県の第3期計画が適切なPDCAサイクルが回る質が高いものとなっている。

[指標と計測] 第3期計画案が「ロジックモデルを使って作られる」「分野別にアウトカム目標が設定される」率

③上記目標達成に対し、アドボケートの貢献が確認される。

[指標と計測] 「がん政策サミット参加者アンケート」「第2回患者アドボカシーアウトカム評価アンケート」

自己評価 ○

①国の第2期計画のアウトカム評価は未達または不明が多い、県に関しては最終年度が実施中であるが同様である、と考えられる。

②3期計画策定中の県アンケート(2017年9月、44県回答)で、「ロジックモデルを採用」(未定を除く23県中13県)、「分野ごとにアウトカムを設定」(同27県中26県)となり、第2期計画より大幅な改善が見込まれる。

③2018年春に、47都道府県の第3期計画に関し、アウトカム目標、アウトカム指標、アウトカム達成に資する施策の設定等を計測する。

第14回がん政策サミット2017春

次期都道府県がん対策推進計画にアウトカム目標が書き込まれ、真に必要な施策が策定され、評価される仕組みが論理的に組み込まれる。

第12回がん政策サミット

都道府県で、「あるべき姿」をアウトカム目標に設定する理解が深まり、ロジックモデルの考え方をを用いた、論理的ながん対策議論が行われる。

第15回がん政策サミット2017秋

47都道府県のがん計画に、成果(アウトカム)目標が記され、それに効果(インパクト)があると想定される施策が盛り込まれること。

第13回がん政策サミット2016秋

各地でがんの部位別・医療圏別のプロジェクトが実施される。

自己評価 ○

上記②のアウトカム評価と、前ページのアウトプット評価および参加者アンケートの記述を勘案すると、がん政策サミットおよび参加者が効果をもたらす影響を与えた部分があると考えられる。

中期アウトカム目標 (2015策定)

県計画中間評価時(2015年):患者アドボケートががん政策のPDCAサイクルにより広く参加し、活動を高めている。

[指標と計測] 「都道府県がん対策推進協議会等・患者関係委員参加状況調査」(指標:参加度、活動度)(仮案)

自己評価 △

①2015年11月都道府県調査(42都道府県回答):38都道府県ががん対策推進協議会(本会)に患者・住民委員が2名以上と回答。国の協議会では数人であり、それに準じるべきと考えられる。

②2016年患者アドボカシーアンケート:「患者アドボケートが成果を生んでいるか」に関して、患者関係者(回答85人)の48%、行政担当者(同26県)の93%、医療提供者(同109人)の61%が「生んでいる」と答えた。行政の認知が高いが、患者関係者自身には未達成感がありさらなる強化が必要と考えられる

がん政策サミット2015秋

施策の結果ではなく、「施策の成果につながるがん対策が計画・実行されているか」という視点で、自県の中間評価、3次計画策定に参画する

がん政策サミット2015春

がん対策基本法改正の流れに患者・医療現場・地域の声を届ける
・国の第二次がん計画中間評価を理解し、自県の中間評価を患者視点で見直す

誰にでもできる! 第3次がん計画 策定ガイドブック改訂版(2017)

http://cpsum.org/pdf/summit/14/cplan_guide_1705.pdf

WHO, UICCなどのマテリアル、政策立案評価に関する各種資料やこれまでのがん政策サミットでの経験から、がん計画のPDCAをベースにした作業手順をまとめた

がん対策:地域別データベース および データ分析用ロジックモデルシート(2016)

<http://cpsum.org/ccm>

様々な機関から出ているがん対策に関するデータを一つのエクセルシートにまとめ、分析しやすくしたデータ集を作成
このデータを活用して自県のがんの部位別死亡軽減対策を論理的に考えるロジックモデルも提供

次期がん計画策定に関する都道府県アンケート(2017)

http://cpsum.org/pdf/summit/15/3rdPF_planstructuresurvey_web.pdf

都道府県が、骨子部分をどのような考え方で策定するかをアンケートしまとめた資料
自県の状況把握や、他県の動向を把握することが目的

分野別指標マップ(2016)

<http://cpsum.org/pdf/ccontrolindex1606.pdf>

国と都道府県の間評価で出てきた指標を、分野別にロジックモデルに当てはめてマッピングしたもの
アウトカム指標とアウトプット指標の混乱を避ける一助とするため、また他県の指標好事例を共有することが目的

六位一体で政策議論を進めるためのガイド(2016)

<http://cpsum.org/msdguide>

様々な立場の人が集って政策議論をする際の注意点等を、専門家の視点を交えてまとめた資料
協議会などに出席する委員に読んでもらうことを想定しているため、都道府県にも配布

都道府県がん対策カルテ(2015・2017)

http://cpsum.org/pdf/Pref_Karte_2017.pdf
がん対策地域別データ集から、重要な指標となるデータを都道府県別にまとめたページと、都道府県にアンケートを行った次期計画策定のスケジュール等について公開した資料集

http://cpsum.org/pdf/Pref_Karte_2015b.pdf
がん対策遂行のための会議体や委員の人数などを聞いた都道府県アンケートの結果をまとめた資料他県と比較し、自県の体制が十分であるかを検討する意識づけの材料として作成

- 近畿がん政策サミット(2015/3, 兵庫県)(2016/2, 滋賀県) 患者会主催
- 北海道がんサミット開催(2016/7)(2017/7) 北海道六位一体協議会主催

[資料1]

「近畿がん政策サミット2015」のプログラム

～がん対策市民フォーラム「がん対策のこれから」～

ひょうごがん患者連絡会

- I、開催日時 2015年3月22日(日) 10:00～16:30
- II、開催場所 神戸市勤労会館308号室(120人教室)
- III、フォーラムでの研修目標
 - 1、近畿6府県で地域のがん対策を継続的に高め合っていく。
 - 2、第2期府県がん対策推進計画がほぼ2年を経過して中間点となるこの時期に、各府県の中間評価と後半に向けての課題を交流し合って好事例を学ぶ。
- IV、プログラム

榎岡健一先生に基調講演を頂き、各府県のがん対策推進責任部門長とがん患者団体代表から「がん対策推進計画の現状と課題」(「がん検診の質と受診率の向上対策」と「他府県に紹介したいがん対策」を含む)について報告し合い、近畿圏域の交流を図る。

*
司会 ひょうごがん患者連絡会会長 去来川節子

9:30 受付開始(*注)

会計報告

	2015年	2016年	2017年
経常収益			
会費	33,000	33,000	33,000
寄付金	14,557,000	14,138,306	10,587,000
助成金	0	1,000,000	4,584,000
事業収益	214,000	409,000	364,000
受取利息	486	363	39
計	14,804,486	15,580,669	15,568,039
経常費用			
事業費			
人件費	2,749,625	3,088,805	3,097,220
その他経費	6,790,635	8,832,584	7,382,216
計	9,540,260	11,921,389	10,479,436
管理費			
人件費	1,072,100	1,804,300	1,920,000
その他経費	1,492,855	1,189,069	1,318,807
計	2,564,955	2,993,369	3,238,807
計	12,105,215	14,914,758	13,718,243
助成元返金			939,474
当期経常増減額	2,699,271	665,911	910,322
設立時正味財	915,080		
前期繰越正味財産		3,614,351	4,280,262
次期繰越正味財産	3,614,351	4,280,262	5,190,584

● 第1期にご寄付をいただいたみなさま
MSD株式会社
協和発酵キリン株式会社
サノフィ株式会社
ファイザーオンコロジー
アストラゼネカ株式会社
小野薬品工業株式会社
武田薬品工業株式会社
日本イーライリリー株式会社
ヤンセン株式会社
個人

● 受けた助成金
2016年度 サントリー文化財団
「人文科学、社会科学に関する学際的グループ研究助成」
平成29年度 独立行政法人福祉医療機構
社会福祉振興助成

がん医療と患者さんの療養生活の均てん化*のために CPsum がん政策サミット

* 均てん化 = 全国あまねく最上の医療が受けられ、生活の質の高い状態にあること

